



「伝和泉式部宝篋印塔と加古川」

イオン加古川店の西の野口交差点のすぐ西側に洋服のはるやまがあります。その裏側（西国街道があった場所）に県指定文化財である伝和泉式部の宝篋印塔があります。室町時代初期の応永年間（15世紀初め）に作製されたと考えられ、高さ227.5cmという巨塔です。ちなみに全国に墓所といわれる所が多数あります。

和泉式部というと、三十六歌仙の一であり、小倉百人一首56番「あらざらむこの世のほかの思ひ出に今ひとたびの逢ふこともがな」が有名です。百人一首に関わった人は一度は読み上げた歌ではないでしょうか？

他の作品は、第63代冷泉天皇の第4子である敦道親王との恋の顛末を記した『和泉式部日記』、『拾遺和歌集』以下、勅撰和歌集に246首の和歌を採られ、『後拾遺和歌集』では最多入集歌人となっています。

紫式部などと同様にこれだけ有名な歌人でありながら、本名が残らないのが当時の状況です。わかっているのは、越前守・大江雅致の娘で、和泉守・橘道貞の妻、夫の任国と父の官名から「和泉式部」という後の女房名が名づけられます。

さて、なぜ加古川のこの地に和泉式部の供養塔と考えられるランドマークがあるのでしょうか？以下の歌にヒントがあるかもしれません。

「暗きより 暗き道にぞ入りぬべき遥かに照らせ 山の端の月」この歌は書写山圓教寺

の開祖性空上人への結縁歌です。歌の返しに性空上人から袈裟をもらい、それを着て命を終えたと伝えられています。和泉式部は圓教寺を訪れたといわれています。西国街道沿いに塔が存在する一つの理由かもしれません。



人

